

No.3 子どものあそびを広げよう

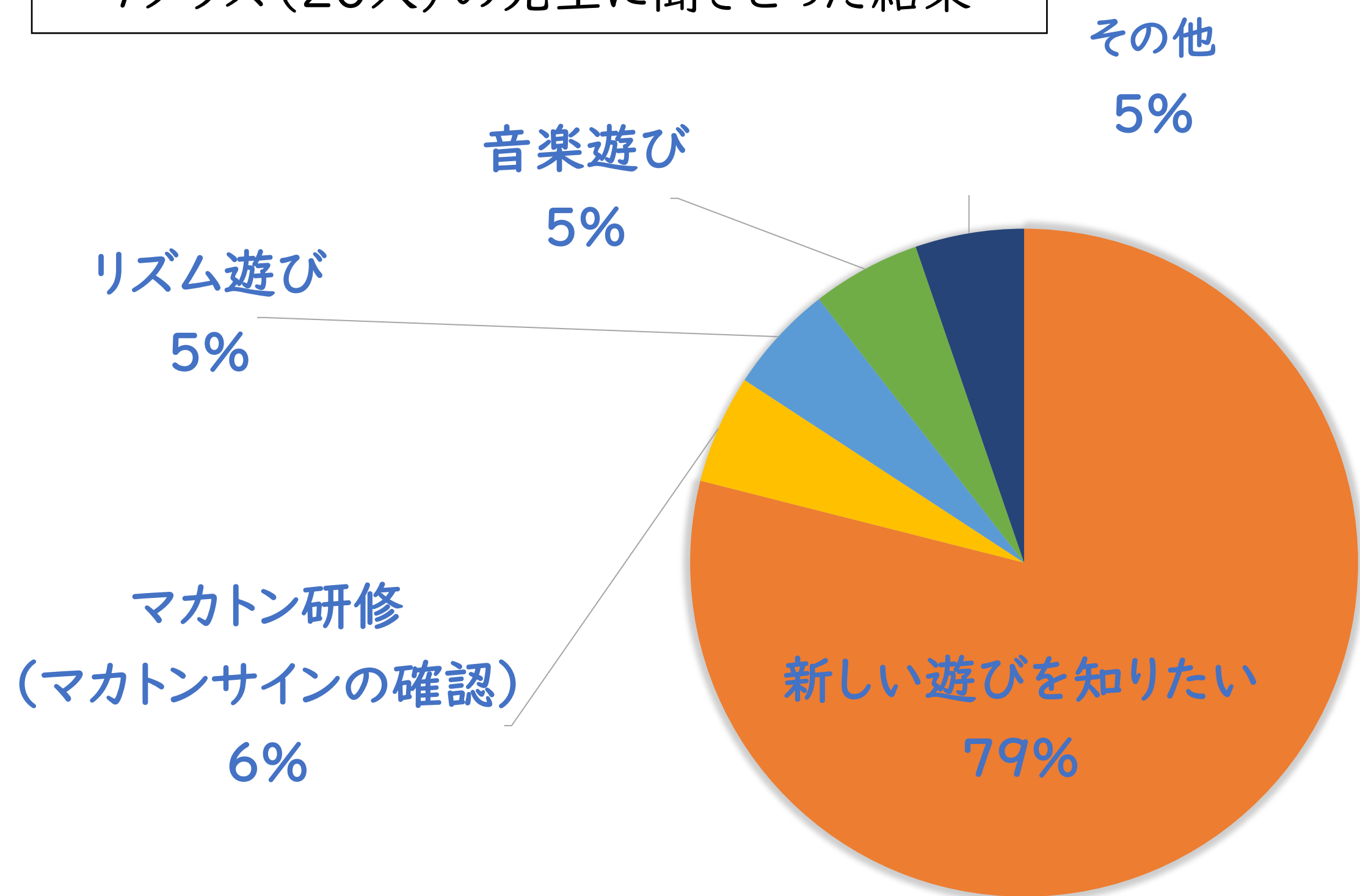
～保育の引き出しを増やす～

こども支援センターあすなろ 藤田由紀恵 名城沙月 中谷幸世 鈴木沙梨

きっかけ

保育士の資質向上のため、毎年職員研修を行っている。R2年度の職員に研修についてどんなことを学びたいかアンケートを取ったところ「新しい遊びや運動についての遊びを知りたい」という保育士のニーズが大きかった。

研修会でとりあげてほしいことは何?と7クラス(20人)の先生に聞きとった結果



先生の声

保育のマンネリ化・やりにくさを感じる
新しい遊びを知りたい
先輩の話を聞きたい
運動遊び・色々な粗大遊具の使い方を知りたい

子どもにつけて欲しい力

人や遊びに興味を持って欲しい

苦手なことも楽しくチャレンジして欲しい

楽しく運動遊びに参加して欲しい

方法と結果

保育を進める中で、困っている事や悩んでいる事、子どもにつけて欲しい力を出し合う

出し合った意見を基に保育を立案する

クラス担任以外の先生に遊びを考えてもらおう

(5歳児:毎日クラス)「ふれあい体操」
ねらい:模倣が難しい子どもでも分かりやすい体操



おんぶでこあらに変身



しっかりとしがみつくてんとう虫



音楽に合わせて蝶々になろう

人や遊びに興味を持つきっかけになった!真似て楽しむようになった!

(4歳児:並行クラス)「サーキット」
ねらい:遊びながら体幹を鍛える



←手押し車の体勢で横に進む

両腕で身体を支える→



目新しい動きなので、取り組みの姿勢もよかった!

各クラスで実際に取り組む・必要により再検討

全員で共有する

考察とまとめ

・クラス担任からアンケートを取る事で、「遊びのマンネリ化」「保育のやりにくさ」を感じている職員が8割もいることが分かった。今回の取り組みでは、ニーズに対してねらいを立てたことでクラスが求める遊びを見つけることが出来た。研修後、職員からは「子どもの育ちを助長できるよう、ねらいに対して保育を立案することの大切さを改めて感じた」「いろいろな遊びを知る事が出来た。また実際に保育し、子どもたちの反応が良かったことが手応えとなり、より前向きに保育に向き合えるようになった」と意見が出た。
・子どもの姿では、クラス担任以外が新しい目で考え、今までにない遊びを提供したことで、反応も良く、「期待して待つ」「もっとしたい」と能動的に取り組む姿があった。

今後に向けて

・職員同士で意見を出し合う事、実際に取り組む再度検討する事、意見交換、情報共有する事が、職員一人ひとりのスキルアップになり、保育の質の向上に繋がっていくと考えられる。今後も、職員のニーズに合わせた研修を行っていきたいと思う。
・職員の「お勧めの遊び」「繋ぎの遊び」「子どもとの関りで気を付けている事」を聞き取りまとめた冊子を作り、それぞれの部署に保管。